



令和3年度

中央卸売市場事業会計決算の概要

令和4年（2022年）11月

札幌市中央卸売市場

1 公営企業会計の特色

○公営企業会計の収支は収益的収支と資本的収支の2種類に区別されます。

【収益的収支】

- ・市場を運営するための日常的な活動による収支
- ・1年間の経営成績を表す

【資本的収支】

- ・施設の建設・改築及び設備更新にかかる収支
- ・収入と支出の効果が翌年度以降に及ぶ

2 収益的収支 ・ ・ ・ 経営の収支

(単位：千円)

区 分	R3年度決算 ①	R3年度予算 ②	差引①－②
収益的収入 (A)	2,143,648	2,192,000	△48,352
営業収益	1,557,752	1,620,000	△62,248
営業外収益	585,896	572,000	13,896
収益的支出 (B)	2,176,039	2,256,000	△79,961
営業費用	2,020,310	2,089,000	△68,690
営業外費用	155,728	162,000	△6,272
予備費	0	5,000	△5,000
差引 (A)－(B)	△32,391	△64,000	31,609

【収益的収支】

収支は3,239万円の赤字となったが、予算と比較し、3,161万円良化。

○収益的収入

新型コロナウイルスワクチン接種が進んだものの、売上高割使用料※がコロナ回復の水準に及ばない等、4,835万円の減収。

○収益的支出

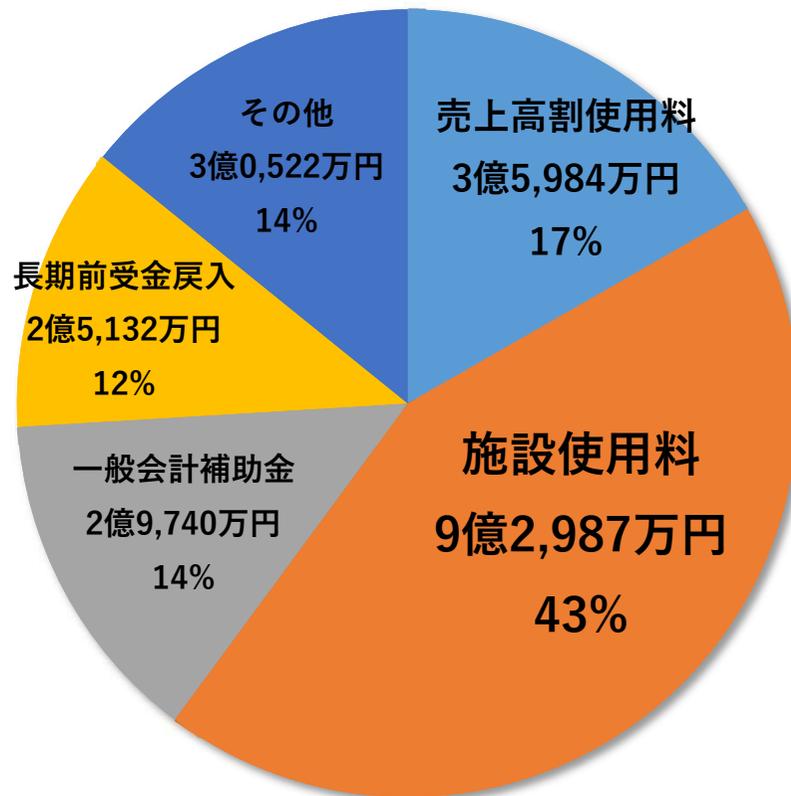
人事異動に伴う人件費の減少や、光熱水費の減少等により、7,996万円の不用額が発生。

※卸売業者や仲卸業者が取扱額に応じて支払う使用料

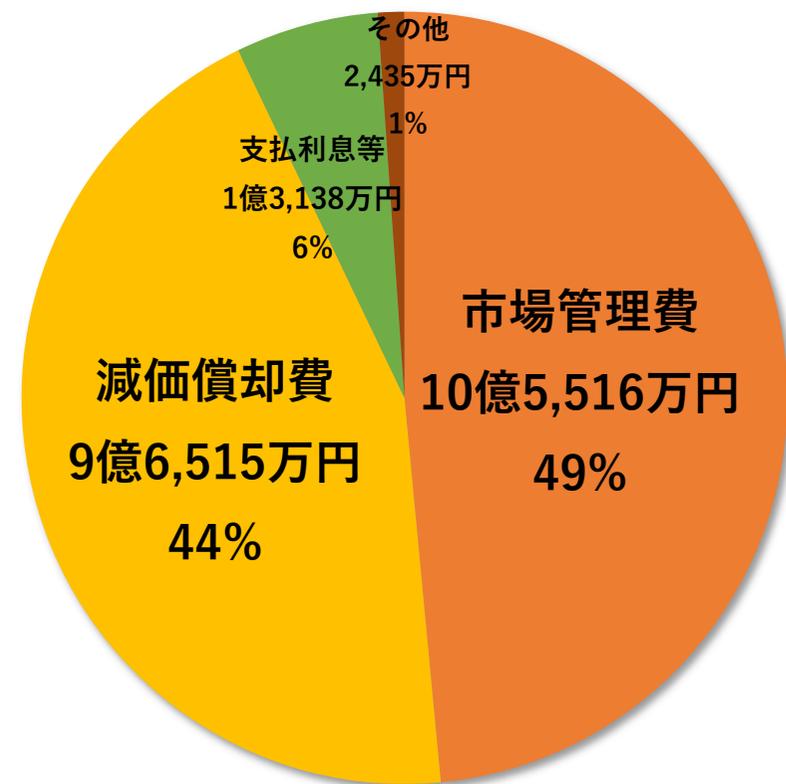
端数の関係上、合計は一致しないことがあります。

2 収益的収支 ・ ・ ・ 経営の収支

収益的収入（21億4,365万円）



収益的支出（21億7,604万円）



3 資本的収支 ・ ・ ・ 建設改良費とその財源

(単位：千円)

区 分	R3年度決算 ①	R3年度予算 ②	差引①-②
資本的収入 (C) ※1	1,088,135	1,194,000	△105,865
資本的支出 (D) ※2	1,709,104	1,814,000	△104,896
差引 (C) - (D)	△620,969	△620,000	△969

※1 企業債（建設改良費等に充てる借入金）の借入や
出資金（一般会計からの繰入金）など

※2 建設改良費や企業債の償還金など

【資本的収支】

収支は6億2,097万円の赤字となり、予算と比較し、赤字額について97万円増加。

○資本的収入

企業債の借入額等の減少により1億587万円の減少。

○資本的支出

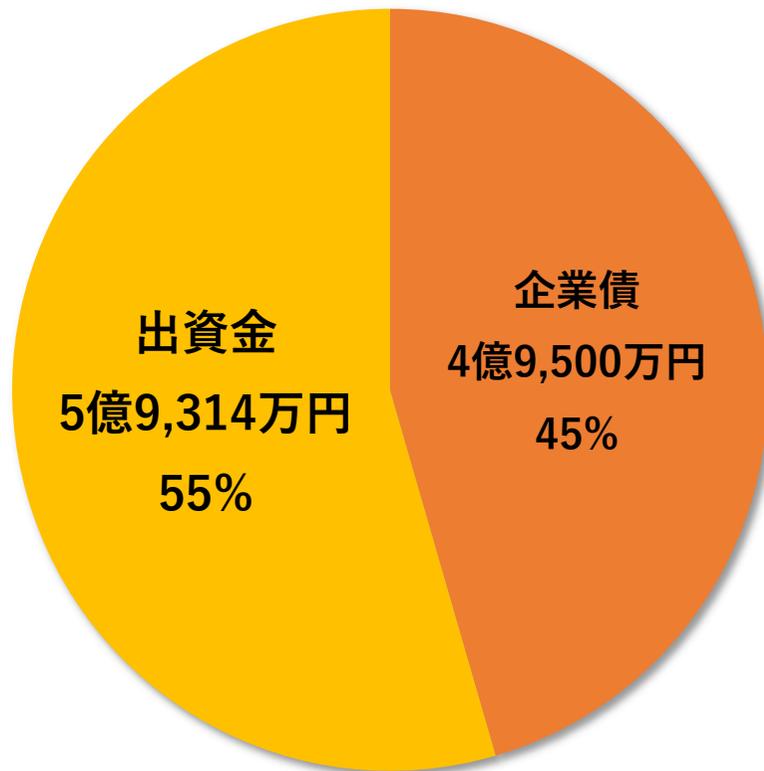
契約差金等による建設改良費の減少により1億490万円の不用額が発生。

○建設改良費の内容

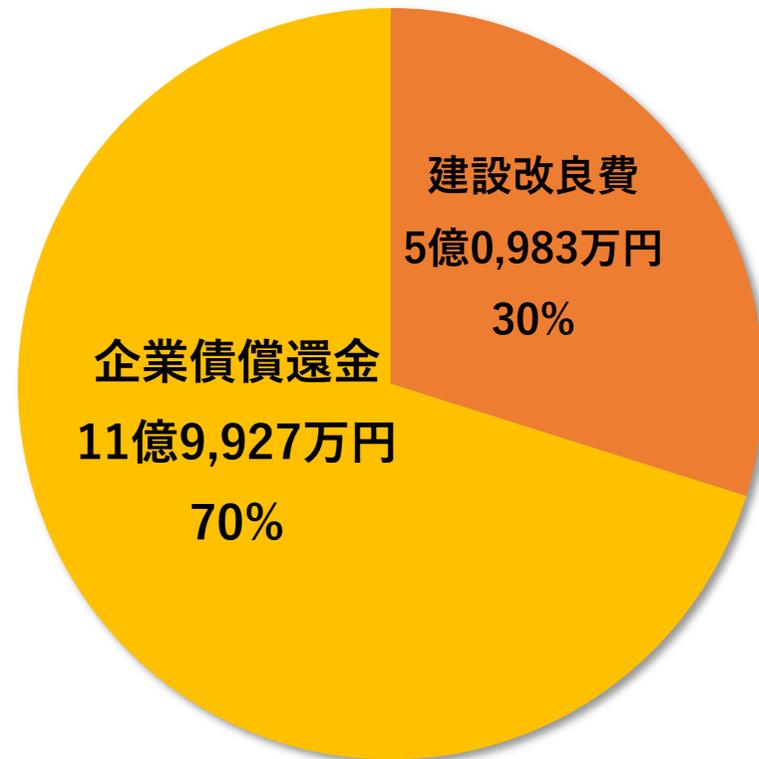
- ・ 水産棟ガスヒートポンプ室内機更新
 - ・ 自動火災報知設備更新ほか工事
 - ・ 立体駐車場ロードヒーティング設備修繕
 - ・ 水産保冷配送センター冷凍冷蔵設備ほか改修
 - ・ 電力設備監視装置更新工事
 - ・ 冷凍設備エバコンファンほか更新
- 他

3 資本的収支・・・建設改良費とその財源

資本的収入（10億8,814万円）



資本的支出（17億910万円）



4 資金の状況

(単位：千円)

区 分	R 3年度決算①	R 3年度予算②	差引①－②
収益的収支	△32,391	△64,000	31,609
資本的収支	△620,969	△620,000	△969
当年度損益勘定留保資金等 ※1	695,651	720,221	△24,570
当年度収支差引 (E) ※2	42,291	36,221	6,070
過年度分内部留保資金 (F) ※3	942,287	888,789	53,498
資金残 (E)+(F) ※2	984,577	925,010	59,567

※1 減価償却費や賞与引当金といった現金の支出を必要としない費用で、企業内部に留保される資金

※2 千円以下四捨五入により、差引額が一致しない場合有

※3 過年度から繰り越された資金

【資金残】

資金は4,229万円増加し9億8,458万円となり、予算と比較し5,957万円の好転。

5 業務量

(単位 量：トン、額：千円)

区分	R3年度決算 (A)	R3年度予算 (B)	予算対比		
			増減 (A)-(B)=(C)	増減率(%) (C)÷(B)	
取扱量	水産物	70,741	76,701	△5,960	△7.8
	青果物	226,681	242,298	△15,617	△6.4
	計	297,422	318,999	△21,577	△6.8
取扱額	水産物	86,486,697	91,676,000	△5,189,303	△5.7
	青果物	54,832,578	57,010,000	△2,177,422	△3.8
	計	141,319,275	148,686,000	△15,954,308	△5.0
売上高割使用料	水産物	220,220	233,434	△13,214	△5.7
	青果物	139,619	145,164	△5,545	△3.8
	計	359,839	378,598	△18,759	△5.0

【水産物】

新型コロナウイルスワクチン接種による行動制限緩和が進んだものの、見込んでいたコロナ回復の水準には及ばず、取扱量において7.8%、取扱額において5.7%の減少。それに伴い、売上高割使用料についても5.7%の減少。

【青果物】

天候不順等により、「玉ねぎ」・「ばれいしょ」・「にんじん」等の入荷が減少し、取扱量において6.4%、取扱額において3.8%の減少。それに伴い、売上高割使用料についても3.8%の減少。

6 令和3年度予算との比較

【収益的収支】

収入では、新型コロナウイルス回復前の水準に及ばず、取扱額の減少により売上高割使用料が減少したものの、支出においても、人件費や光熱水費などの市場管理費が減少したことから、収支は3,161万円好転しました。

【資本的収支】

支出では、契約差金等により建設改良費に不用額が発生したものの、企業債借入額の減少もあり、収支は、赤字額について97万円の増加となりました。

【資金残】

資本的収支が悪化したものの、収益的収支の好転により資金残は5,957万円好転しました。

【まとめ】

令和3年度決算は予算と比較し、主に支出面において好転した結果、単年度収支は、令和2年度の赤字から黒字に好転しました。引き続き、安定した収入の確保、継続的な支出の抑制等に取り組むと共に、市場事業を安定的に運営していくため、持続可能な財務体質の構築を目指します。